

NEEDS デイリーで更新される大量データを高速に処理 機関投資家の資産運用業務を強力に支援

日経QUICK情報株式会社（以下日経QUICK情報）と日本経済新聞社では、国内株ポートフォリオの運用管理業務を支援するツール「日経ポートフォリオ・マスター」を開発した。このツールは、膨大なポートフォリオを容易に整理できる機能や、充実したレポート作成機能など、多彩な機能を数多く装備。資産運用業務の大幅な効率化を実現する。

3600銘柄以上の大量データを扱うだけに、システムには群を抜く高速性・信頼性が不可欠。そこで同社ではデータベース・エンジンに「DBMaster」を採用し、高速処理とシステムの安定稼働を実現している。

精度の高いデータを提供し 顧客企業のビジネスをサポート

相次ぐ法制度の改革や規制緩和など、金融・証券業界を取り巻く環境は大きく変動している。効率的な資産運用を行うためには、様々な情報を迅速に入手・分析できる環境が不可欠。こうした状況の中、注目を集めている企業が日経QUICK情報だ。同社は先進的な金融情報の開発・提供を行うべく、日本経済新聞社とQUICKの出資によって設立された企業である。

次長の箱田 啓一氏は「当社は金融情報の的確・タイムリーな提供をミッションとしており、日経新聞の総合経済データバンク「NEEDS」の販売や金融機関向け資産運用支援サービス「AMSUS」、株式発注・売買執行コストの分析サービス「ESAS」、執行評価サービス「TCAS」など、幅広いサービス群をご提供しています」と説明する。金融情報の提供を行う企業は数多く存在しているが同社は日経グループならではの強みを存分に発揮。箱田氏は「特に日本市場関連の情報については、質・量・スピードなどすべての面においてトップクラスと自負しています」と力強く語る。

機関投資家の業務を支援する 「日経ポートフォリオ・マスター」

こうした同社のサービス・ラインナップに、新たに加わったのが「日経ポートフォリオ・マスター」だ。このサービスは機関投資家の日常業務に焦点を当てた業務支援サービスであり、「運用業務支援システム」「運用レポートデータ自動作成」「ポートフォリオ・ファイル管理」「証券分析用時系列データベース」などのシステムで構成。国内株ポートフォリオの運用・管理に絶大な威力を発揮する。本サービスに搭載される「NPM日本株式リスクモデル」は、規模ファクター、市場感応度ファクター、B/Pファクター、E/Pファクター、財務健全性比率ファクター、米国株感応度ファクター、売買回転率ファクター、変動制ファクター、長期リターンファクター等によるマルチファクターモデルを採用。日次モデルであるため、日々のリスクを確実に管理することができる。分析・評価のベースとなるデータについても、高い信頼性を誇るNEEDSデータを使用。過去に倒産・合併を行った企業のデータも網羅すると同時に、10年分の日次データが順次提供される予定となっている。

パフォーマンスの高さを評価し 「DBMaster」を採用

このように充実した機能を備えた日経ポートフォリオ・マスターだが、開発を行う上では様々な苦労もあった。特に問題となったのがシステムのエンジン部分となるデータベースである。中野 寿栄氏は「膨大なデータをスピーディに処理するためには、非常に高速なデータベースが必要です。しかし開発当初に選んだRDBMS製品では、なかなか思うようなパフォーマンスが得られなかったのです」と説明する。

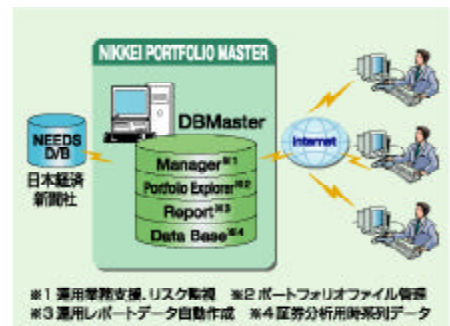
2002年5月からトライアル・サービスの開始が予定されていたため、同社ではRDBMSのチューニング作業を何度となく繰り返した。しかしサービス開始直前になっても、十分に満足いく性能が出ない。こうした時に、CIJから提案を受けたのが「DBMaster」であった。「試しに評価を行ってみたところ、DBMasterはほとんどチューニングなしの状態で、以前のRDBMSと同等以上のパフォーマンスを発揮しました。その上低価格であるため、コストが削減できる。そう考えてDBMasterへの移行に踏み切りました」と中野氏は語る。

複雑な検索をわずか数秒で終了 コストと使い勝手の良さにも大いに満足

しかし大きな一つ問題となったのが構築期間である。DBMasterの評価終了からトライアル・サービスの開始まで、わずか2週間余りしか残されていなかったのだ。ソリューションの中核となるRDBMSの全面切り替えを行うには決して十分とは言えない期間である。「幸いDBMasterはRDBMSの標準的なインターフェイスであるODBCをサポートしているため、旧データベースからの移行作業は1週間程度で完了。無事トライアル・サービスの開始に間に合わせることができました」と箱田氏は語る。

DBMasterを採用したことで課題であったパフォーマンスも大幅に改善した。中野氏は「システムには約3600~3700程度の銘柄が登録されていますが、3年分のデータの中から特定の日付を指定して検索を実行した場合でも、7秒位しか掛かりません。以前の環境では同じ作業に20秒ほど掛かっていましたから、約1/3程度に時間を短縮できたことになりました」と説明する。

一般的な在庫検索などでは、基本的に一度検索を



実行すればそれで用は足りる。しかし資産運用業務では何度も複雑なシミュレーションを繰り返すため、検索時間の速さが業務全体に大きな影響を及ぼすことになる。「そういう意味でも、DBMasterを採用した効果は大きかったですね。ムダな検索待ちの時間がなくなり、スピーディな業務が実現できます。システムには最終的に10年分という膨大な日次データが蓄積されます」と箱田氏は語る。「大規模データベースが構築できる製品でありながら、PC向けRDBMS的な感覚で手軽に利用できる点も気に入っています。またもう一つ大きいのがコストの安さ。DBMasterを選んだおかげで、開発コストを大幅に引き下げることが可能になりました」と中野氏も続ける。

日経ポートフォリオマスターは2002年10月に本番サービスを開始。既に複数のユーザーが利用を開始している。部長の川原 隆氏は「厳しい経済状況が依然として続いています。今回のシステムがお客様の資産運用業務の効率化に役立てばこんなに嬉しいことはないですね。今後も充実したサービスをご提供し、お客様のビジネスに貢献できればと考えています」と力強く抱負を語った。

PROFILE

社名：日経QUICK情報株式会社
 本社：東京都江東区東陽2-2-20
 設立：1992年9月
 代表者：代表取締役社長 藤崎 重隆
 U R L：http://www.nqico.jp/
 事業概要：日本経済新聞社、QUICKの出資によって設立された金融情報専門の開発・販売会社。「多様化・高度化する金融界の情報ニーズに、タイムリーかつ的確に応える」をモットーとしている。

当事例の導入代理店 株式会社C I J E-mail:dbmaster@cij.co.jp

日本総代理店

DBMaker Japan

TEL:03-5456-8838 FAX:03-3477-9485
 http://www.dbmaker.co.jp/

お問い合わせ先